

高木復興大臣福島訪問ぶら下がり会見録
(平成28年1月23日(土) 於) 福島県新地町役場)

1. 発言要旨

今日は双葉町内の視察を行いました。また、相馬市、新地町を訪問し、それぞれの市、町を視察するとともに、それぞれの市長さん、町長さんとの意見交換を行わせていただきました。

双葉町内の視察では、まず避難指示解除準備区域の中野地区に廃炉に関わる産業や研究などの復興産業拠点を整備していく。その後、帰宅困難区域でも線量が低い双葉駅西地区に集約して、コンパクトな町を形成していきたいと、息の長い支援をお願いするという話がございました。復興拠点と復興インターチェンジをつなぐアクセス道路を拡幅、改良してほしいという話もございました。また、福島再生加速化交付金の事業採択に当たり、特段の配慮を求める要望書をいただいたところでございます。

そういうお話がありまして、私からは、町内の復興拠点から復興インターチェンジまでの町の長期ビジョンに沿ったゾーンの構想の実現に向けて、支援をしたいという話をさせていただきました。本日の視察で、町の再生の息吹を実感させていただきましたし、また、中野地区の整備は町の意向をよく伺いつつ、福島再生加速化交付金を活用して対応したいと考えております。

また、相馬市では、尾浜細田東地区の井戸端長屋の災害公営住宅を視察させていただきました。高齢の被災者が孤立をすることなく見守り合いながら、暮らせるという心遣いに感銘をいたしました。入居者の方々ともお話をさせていただきましたが、皆さん、生き生きと楽しい生活をされている様子を伺うことができました。

市長からは、おかげさまで復興計画どおりに進んでいる、復興の進展に応じて、新たな課題も出てくるので、対応をお願いしたいということをおっしゃっていただきました。震災を契機に市民のパワーが高まっている。そしてまた、市民との協働が大切だというようなお話もいただいたところでございます。

また、新地町では、JR常磐線の復旧工事の進捗状況と新駅周辺の市街地整備を視察させていただきました。常磐線は用地取得にめどをつけて、本体工事に着工していると。新駅周辺は地盤をかさ上げし、商業施設や防災拠点を整備する予定だとお聞きをいたしました。

町長からは、震災のピンチをチャンスにして、まちづくりに取り組んでいる。相馬港のLNG受け入れ基地を梃に、新しいエネルギー産業の企業立地も進めているとお話がありました。また、駅前にホテルや温浴施設の整備を考えているが、建築コストが高

騰している折、何とか支援をしていただけないかというお話もございました。私からは、事業計画が具体化していく中で、どのような支援制度を活用できるか、関係省庁とも連携して検討したいというお話をさせていただいたところでございます。

今日の視察、そしてまた意見交換については以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 特に今日、先ほどなんですけれども、新地駅の建設予定地を見られて、町長の御説明の中で、今年のうちに、今、不通になっている区間が開通する予定だという話をされていました。震災以降、ずっと不通になっていた区間にそういうめどが立ってきたことについて、所感をお伺いします。

(答) もちろん震災からの復興、いろいろなものがございます。住まいだったり、道路だったり、あるいはまたこれからの生活だとか、生業がありますけれども、やはり鉄道というのは、昔からまさにその地域の方とともに歩んできた、ある種、少しほかのものとは違う思い入れがあるのではないかなというふうに思いもいたします。そうした意味において、この鉄道が復旧、復興していくというのは、町の皆さんにとっても、勇気づけられることでしょうし、一つの復興のシンボルだというふうに思いますので、大変ありがたいというふうに思いますし、これからこういった鉄道の復旧・復興を通じて、さらに復興が加速化されていくといいなというふうに思います。

(問) 町長のお話でも、鉄道を含めてなんですけれども、人口を増やしていきたいというお話もありましたけれども、そういう人の移動がそれによって生まれてくるということは重要とお考えでしょうか。

(答) もちろんそうですね。動くものがあるというのは、流動、交流、大事なことだというふうに思いますので、そうした意味においても、鉄道はそうした町を元気にすることに大きく資するというふうに思います。

(問) 大臣は双葉町の原発事故被災地は初めての視察だというふうに聞いておりますけれども、今日はその荒涼としたまだやっぱり復興が遅れているところもたくさんある、ああいうところから、浜通りをこう上がってこられて、そして今、復興のトップランナーを走っている新地、相馬まで来られたんですけれども、そうすると、復興格差というものが非常に芽生えているんですけれども、一つはこれについてどう思われたか、今日の印象です。双葉町の光景にやっぱり衝撃を受けられたかどうかとか、その違いですね。格差というものが生まれているということについて、どうお考え

でしょうか。

(答) 双葉町を拝見させていただいて、改めて今回の原子力災害の甚大さというものを痛切に感じました。さはさりとは、やはり帰ってきたいと、帰還したいという方がいらっしゃるわけでありますから、そうした方のために、どうしたことができるか、特に復興拠点の話をさせていただきましたが、そうしたことを中心に、しっかりと双葉で復興していただけるように頑張らなければなりませんし、また、相馬、新地につきましても、皆さんの御努力で復興が進んでいるという実感を受けました。さはさりとは、復興が進めば、また新たな課題も出てきているという話も先ほど相馬の市長からお聞きをいたしましたので、常にどの段階にあっても、被災地の皆さん方に寄り添いながら、復興庁として、あるいは大臣として、復興に取り組んでいきたいと、そういう思いを持った1日でした。

(問) まさに今日視察された双葉町と浪江町の復興祈念公園と、それから施設の整備状況です。原発に近いところほど復興が今遅れているというのが当然、まさに大臣がおっしゃった原発災害の特徴ですけれども、国としては、その原発の安全神話で原発を進めてきたその責任も考えて、原発事故の負の遺産、これを教訓にするためには、大臣も以前、原子力明るい未来のエネルギーとか、ああいう看板を保存すべきだという運動があります。そういう負の遺産として、教訓として、未来に生かしていくという考え方については、大臣、いかがお考えですか。

(答) 先ほど来、申し上げているとおり、本当に大きな被害が出た甚大な原子力災害でありますから、これはもう絶対に二度と起こしてはいけないという強い思いを持たなければなりませんし、何と言いましても、やっぱりこの原子力発電というものは、安全が最優先されるものだということを改めて実感をしながらか、今、被災地を回らせていただいているということですので。

(問) その負の遺産として、やっぱりそういうものは震災遺構としてもきちっと保存すべきだとお考えでしょうか。

(答) それはしっかりと、これだけの大きな被害があった原子力災害でありますから、後世にそういったことを伝えていくということは必要だというふうに思います。二度と起こしてはいけないということを誓うということではないかというふうに思います。

(問) 原発事故に関連しまして、今日、双葉を初めて見られたと、被災地を初めて見られたと思うんですけれども、いまだに除染廃棄物があちこちに積んである状況が続いております。これが一つ復興の進まない原因にもなってくると思うんですけれども、これらを含めどうしていきたいとお考えでしょうか。

(答) もちろん中間貯蔵施設、今、環境省を中心に取り組んでいますけれども、しっかりと早く、そういったものも整備して、少しでも早く集約をしていくというようなことが大事だというふうに思います。

(問) 大臣、関連してなんですけれども、今日、双葉町長の伊澤さんに対して、しっかりとこういう復興拠点施設を支援するということとお約束されて、そのときに復興加速化交付金、それ以外のものも考えるというふうにおっしゃって、例えば具体的にはどういったことでしょうか。

(答) それ以外というよりも、４％しかまだエリア（避難指示解除準備区域）がないわけですが、それだけではなくて、復興拠点エリアだとか、あるいはインターチェンジからの道路だとか、そういったようなものについても、これから支援をして、しっかりとやっていくという、そういう意味で、そのほかというのは、その４％のほかという、そういう意味で申し上げたところであります。

(以 上)